

# BABYSTORYの効果

ポスター16 子育て支援 2

## P2-011

出産メモリアル事業が子育てに及ぼす影響：Baby Story における感想はがきの分析を通して

松井 剛太<sup>1</sup>、越中 康治<sup>2</sup>

<sup>1</sup>香川大学教育学部  
<sup>2</sup>愛媛大学

座長：西村 玲  
鳥取大学医学部 周産期・小児医学分野

## P2-012

母親のストレス対処方法の変化～産後4か月と10か月の比較～

井倉 一政、宮崎 つた子

三重県立桑名大学

### 1.【目的】

近年、妊婦の出産に伴い、メモリアル事業として記念品を贈呈するサービスを実施する産院が増加している。本研究では、出産メモリアル事業が家族の子育て意識にどのような影響を及ぼすのかを検討することを目的とする。

### 2.【方法】

(1) 対象 本研究では、株式会社コミットコーポレーションが実施している「BABY STORY」を対象事業とする。「BABY STORY」は、産婦人科医院から家族への出産記念プレゼントとしてフォトムービーを贈るものである。家族が撮った赤ちゃんの写真や動画、医院の映像、メッセージを素材として制作されたDVDで、タブレットやスマートフォンでも視聴できるようにされている。(2) 分析の方法 Baby Storyのサービスを受けた家族の感想はがき(48産院1673通)における記述を分析した。分析には、樋口(2004,2015)を参考に、KH Coder(Ver.2009)を使用した。また、形態素解析(文章を単語あるいはフレーズ毎に切り分ける処理)には、KH Coderに同梱された茶室(ChaSen)を使用した。はじめに1,673件の自由記述データを分析対象ファイルとして前処理を実行した。文章の単語集計の結果3,733の文が確認された。分析に使用される語として24,574語(異なり語数1,788)が抽出された。

### 3.【結果】

語の共起ネットワーク(最小出現数30、面数250)を描くことで、典型的な記述パターンを視覚化を試みた。共起ネットワークを概観すると、典型的な記述には以下のようなものがあることがわかった。「DVDを何度も見ている」「産んだ、生まれたときの気持ち」「出産・誕生の感動・喜び」「初めての育児」「幸せな気持ち」「思い出す・涙が出る」「一か月経って改めて懐かしを感じる」「将来、子ども(息子・娘)が大きくなったら、成長したら見せたい」「プレゼントとして渡したい」「一緒に楽しみたい」「一か月経って成長を感じる」「受け取る前に携帯で動画を見れる」、「本当にありがとう」「今回も楽しみにしていた」「上の子・〇人目にも作った・作ってあげたい・お願ひしたい」、「主人・両親も喜んでる」

### 4.【考察】

BabyStoryは、家族とともに出産・誕生の感動を思い出し、前向きに子育てに取り組むことを後押しする役割を果たしているといえようである。他方、「入院中にもっと写真を撮っておけばよかった」「自分自身で写真を選べると良い」などの記述もあり、これらが改善すべきポイントである可能性が示唆された。

### 【目的】

核家族化や少子化など社会的背景の変化により、育児について十分な知識を得る機会が少ないまま妊娠・出産を迎える母親が増加し、産後の母親は、育児に対して不安な気持ちを抱えながら子育てを行っていることが報告されている。産後の母親の10～26%程度が悩まるとされる産後うつは、精神保健の重要な課題のひとつである。産後うつに関連する要因として、母親の年齢や職業、出産回数、家族形態、子どもの人数、健康状態、パートナーとの関係、社会的なサポートなどがこれまでに報告されている。本研究では、産後の母親のストレスやその対処方法の変化を明らかにすることを目的とした。

### 【方法】

対象者は、A市内の3つのクリニックで2017年1月～6月に1か月児健診を受診した母親276人である。研究者から、研究目的や方法、研究協力の自由、個人情報保護などを文書と口頭で説明し、同意書を得た。産後4か月と10か月に郵送法で匿名自記式質問紙調査を行った。調査内容は、基礎属性、育児協力者の有無、エジンボタ産後うつ質問票(以下、EPDS)、育児ストレスインデックス(以下、PSI)、ストレス対処方法の特性(以下、BSCP)とした。PSIとBSCPは、尺度開発者の使用許可を得て用いた。基礎属性と育児協力者の有無、EPDSは、記述統計を算出し、産後4か月と10か月の母親のPSIとBSCPの変化の検計には、t検定を用いた。統計処理には、IBM SPSS Statistics 24を使用した。なお、本研究は、三重県立看護大学倫理審査会の承認を得て行った。

### 【結果】

4か月と10か月ともに調査に回答した母親は69人(回収率25.0%)であった。平均年齢は、31.64±4.34歳であった。育児ストレスの結果では、「子どもが期待どおりにいかない」と「刺激に敏感に反応する／ものに慣れにくい」の項目で10か月よりも4か月の方が有意に高く、「親につきまとう／人に慣れにくい」と「夫との関係」で、4か月よりも10か月の方が有意に高い結果であった。また、ストレス対処方法では、「回避と抑制」で有意な差が認められ、4か月よりも10か月の方が「回避と抑制」の点数が高かった。

### 【結論】

産後4か月よりも10か月の方が、母親の育児ストレスの対処方法の「回避と抑制」を多く用いることが明らかになった。育児中の母親が援助希求行動を取ることができるように、必要に応じて家族や専門家などの周囲による母親への関わりが重要であると考えられた。

出産メモリアル事業「BabyStory」が子育てに及ぼす影響—テキストマイニングによる感想はがきの分析を通して—

肯定的に評価されていたのは、第1に、「出産・誕生の感動を思い出す」という点であった。一か月健診の際に受けとることで、生後一か月の成長・発達を実感するとともに誕生の感動を改めて思い出し(図2-①)、そのことが子育てに対するポジティブな気持ちを後押しする(図2-②)ことにつながる可能性が示唆された。第2に、BabyStoryは「子どもへの贈り物・家族の宝物」(図2-②⑤⑧)として受け止められており、次の出産の際にもこうしたサービスを期待する声(図2-④)があった。第3に、「制作側の専門性とサービスの利便性」も肯定的に評価されていた。編集されたフォトムービーのクオリティ(図2-⑦⑧)に加えて、フォトムービーをスマートフォンで気軽に見ることができ(図2-③)、遠隔地にいる祖父母とも共有することができるという利便性が肯定的な評価のポイントとなっていた。

以上のことから、BabyStoryは、家族とともに出産・誕生の感動を思い出し、前向きに子育てに取り組むことを後押しする役割を果たしているといえようである。他方、「入院中にもっと写真を撮っておけばよかった」「自分自身で写真を選べると良い」などの記述もあり(図2-⑦)、これらが改善すべきポイントである可能性が示唆される。特に、写真撮影やメッセージの作成にしっかり取り組むことができたかどうかで完成版を見たときの満足度に影響を及ぼしている可能性があり、利用者に対する事前説明のあり方が重要であると考えられる。事前にサンプルを見せたり、妊婦や家族の意向を踏まえ編集するの一案だろう。

## 5. 引用文献

- 1) 株式会社コミットコーポレーション：ベビーストリー(2019年12月12日取得)  
< <https://commit.jp/service/babystory/> >
- 2) 樋口 耕一：テキスト型データの計量的分析—2

つのアプローチの峻別と統合—、理論と方法、vol. 19 (1), pp.101-115 (2004).

## 6. 付記

本稿の一部は第65回日本小児保健協会学術集会上において発表した。なお、本研究は、香川大学共同研究取扱規程第10条第1項に基づき実施された共同研究【研究担当者：松井剛太(香川大学)、森松直木(株式会社コミットコーポレーション)】の成果を基に作成したものである。